

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500414
法人名	新居浜医療生活協同組合
事業所名	グループホーム香り草
所在地	新居浜市新田町二丁目8番24号
自己評価作成日	平成23年10月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

古民家を改修した建物で、入所者が今までの暮らししてきた生活感を大切にしている。又、住宅地の中にあり、庭に出れば近所の方と挨拶できる環境にあり、地域の中での当たり前の暮らしができるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ケアマネジャーは、利用者一人ひとりの情報をノートにまとめておられ、又、職員は、業務日誌に日々の状態や気になることを記録されている。「利用者が何を望んでいるか」ということを探るために、「利用者」と「ワーカーの座談会」を必要時に開催されており、「外へ出たい」「外食がしたい」等の希望が聞けるようだ。又、職員は、夜勤時、ゆっくり話をうかがうようにされている。管理者は、介護度が重度の利用者には、「一人のご家族だけでなく、複数のご家族から利用者の以前の情報を聞くことがより細やかな支援につながる」と話しておられた。

調査訪問日、利用者ご自分でご飯をよそったり、食後、食器をお盆に乗せて下膳している様子が見られた。食材は、無農薬・自然素材にこだわり、食材を選んでおられ、注文して、業者や近所の魚屋、八百屋から配達してくれるようになっている。野菜を多く使用し、30品目の食材を使った食事作りを目指しておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 香り草

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

才川 真由美

評価完了日

2011年10月19日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 玄関入口と廊下に提示しており、理念の共有と実践を心がけている。	
			(外部評価) 管理者は、新人職員や、職員の様子に慌ただしさを感じるような場面があれば、「自分にされていやな事はしない」という事業所理念を職員に伝え、理念に立ち返ることができるよう取り組まれている。職員の提案で、玄関側面に掲示されていた理念を目につきやすい玄関正面に掲示することにされた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 利用者の重度化により、段々地域のイベントの参加が難しくなっているが、地域の運動会やお祭りなどには参加し、地域の一員として交流している。	
			(外部評価) 自治会の文化祭に出かけた際には、利用者それぞれが、うどんやお寿司等、好きな食べ物のバザー券を購入して、地域の方と一緒に食事を楽しまれた。小学校の運動会に出かけた際には、大きな声で子ども達の応援をされた。利用者は、秋の太鼓祭りを楽しみにされており、事業所の駐車場に机を出して、担ぎ手に花を手渡したり、一緒に掛け声をかけて、祭りの雰囲気を楽しまれた。又、利用者職員でお料理も作り、ご家族と一緒に食事をされた。管理者は、さらなる地域との交流に向けて、毎週木曜日を「レクリエーションの日」と決め、地域の方も誘ってカラオケ・ゲーム・お料理等を楽しむような取り組みも検討されていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等で研修報告や、勉強会等を取り入れ、地域の人達との交流を深めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 社会情勢により、現状問題点や改善策をテーマにして地域の方々に交わって頂き勉強会や意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回、会議を開催し、口腔ケアについて等、メンバーの方達と一緒に勉強されたり、事業所のケアについて意見交換等をされている。今年、スプリンクラーを設置したこともあり、業者からスプリンクラーのシステムについて説明してもらった。消防署の方に防災についての講話をいただいたり、実際に避難訓練を行い、メンバーの方から感想や意見をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議等に参加して頂いたり、ホームの運営等困った時相談指導をしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者の方に生活保護受給者のおむつ代について相談されたり、運営推進会議の機会を活かして、利用者やご家族の支援について、事業所の取組みを実際に見たり、知ってもらいながら相談されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、朝の運営会を通してスタッフ間で共有している</p> <p>(外部評価) 昼間は、玄関を網戸にしておられる。職員の利用者に対する言葉かけで気になるような場面がみられた時には、他の職員が「目で合図」して、注意し合うようにされており、言葉を替えて対応することに努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 運営会にて各利用者さんの現状の把握と状況を協議共有し、ワーカー一同身体拘束ゼロと事故防止に努め、一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修等は参加している	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明の後、納得し、了解をいただいた時点で契約書を作成している。契約書改定時も家族等の意見を考慮している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情処理箱の設置している。問題が起きる度に臨時運営会等開き、外部の人達の意見などを聞いている。 (外部評価) 年1回、家族会「山椒の会」を開催してご家族同士の意見交換の機会を作っておられるが、今年は、ご家族の都合もあって日程が決まらず、開催に至らなかったようだ。「事業所に行けなくて申し訳ない」と話されるご家族には、安心していただけるように、事業所から連絡されている。事業所便りは、年4回発行しておられ、写真を多く載せて活動の様子を伝えておられる。ご家族からは「写真がうれしい」という感想もいただいている。	今後さらに、家族会の開催を工夫されたり、事業所の取り組みの様子や運営推進会議の内容等を発信し、利用者とともに支えるご家族からの意見や要望を、より具体的に引き出していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回の運営会議の前には職員の意見をまとめ、運営会議で話し合いをしている。	
			(外部評価)	
			職員は、外部研修で習ったケア技術等を取り入れたり、介護用品等についても、日々利用者にかかわる職員で話し合っ て揃えるようにされている。又、職員が業務やケアを行い やすいよう、勤務や体制等についても意見交換しながら改 善していくようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			働きやすい職場にする為に個々の職員の状況等を聞き勤務表作成をしたりコミュニケーションを計るよう努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			各種の研修にどんどん参加してもらい、実践に生かせるよう運営会等で発表してもらっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			同業者との交流会を持ち三味線ボランティアや受け入れの際にはホームの食事をふるったりしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			グループホームの日常生活の様子等解って頂く為に、本人と家族さんに見学してもらい、雰囲気馴染んでもらう様にしている。又、要望・気づいた事があれば直接お話を聞かせて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に家族さんから今後の希望等を遠慮なく話をして頂く様配慮している。又、家族さんの困っている事等も聞き入れて入居者の過ごし方も考え、サービス計画に反映している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を具体化し、ケアプランをたてそれに基づいて対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊重し、支えあう関係作りをしている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでも声掛けし、気軽に家族が立ち寄り楽しい一時を過ごせる場所を共に支えあえる様に配慮している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔の職場の同僚、教え子、友人、地域の方、隣人等、家族が気軽に来所出来る様に支援している。 (外部評価) 地元からの利用者が多く、知り合いや友人がよく訪ねて来てくださり、お茶を飲みながら一緒に過ごされている。近くにある診療所のデイサービスの体操に参加する利用者もおられ、ご本人の楽しみとなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングで「小女郎狸ばやし」の歌がかかると皆一緒に楽しい雰囲気体操している。各自思い思いの事をしているが、必ずリビングでする事で通じ合う物がある。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入所前に利用していたサービス機関・サービス関係の行事に参加をしたり、退所された家族さんの関係も続いて交流が持てている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の今までの歴史を探り、家族との関係を大切に、本人にとってやすらげる場所になるよう努めている。 (外部評価) ケアマネジャーは、利用者一人ひとりの情報をノートにまとめておられ、又、職員は、業務日誌に日々の状態や気になることを記録されている。「利用者が何を望んでいるか」ということを探るために、「利用者とワーカーの座談会」を必要時に開催されており、「外へ出たい」「外食がしたい」等の希望が聞けるようだ。又、職員は、夜勤時、ゆっくり話をうかがうようにされている。管理者は、介護度が重度の利用者には、「一人のご家族だけでなく、複数のご家族から利用者の以前の情報を聞くことが、より細やかな支援につながる」と話しておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の今までの暮らしをもとに、家族との今までの関わりを把握し、本人にとってやすらぎの場所になるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のバイタルチェックや心身状態の変化を把握し、毎朝のリズム体操を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の日々の心身状況の変化や望むことを把握し、運営会議で意見を出し合い、問題点を話し合い、共有することで介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎に見直しを行っておられる。職員会議時、利用者のケア等が記録されている日々の業務日誌を見ながら話し合い、新たに介護計画を作成し、ご家族に意見をいただくようにされている。</p>	<p>今後、事業所では介護記録の様式を見直したいと考えておられる。状態のより細やかな記録から、現状に即した介護計画の作成につなげていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の状態・記録を記入し、スタッフ間の共有を図り、問題があれば、介護計画の見直しに生かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>グループ内のケアマネージャーや介護部長等、様々な職種から意見やアドバイスをもらい、生かしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>隣近所の関係を持って、気軽に事業所へ出入りができ、雑談や喫茶などを通じて地域と交流を深めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医の選択は、本人と家族の意向で選んでいるため、訪問看護(24時間対応)や主治医の往診を利用し、納得いく医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 2週間に1回、協力医療機関の医師が往診に来られている。又、近くの診療所の医師の携帯番号を教えていただいております。いつでも相談できるようになっています。連携している訪問看護事業所から、看護師が週2回来てくれるようになり、バイタルサインの確認を行い、介護度が重度の利用者の医療的な処置を行っている。看護師が来られない日は、管理者が電話で相談されたり、排便の様子や気になること等をファクスで送信し、アドバイスをもらうようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護師と馴染みの関係が出来ていて、親身に相談・支援していただいている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時、本人・家族と連携をとり、ソーシャルワーカーを通じ、情報交換をしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期を迎えた時に起こり得る。心身状況の変化など家族とスタッフが共有し、医療機関や家族、スタッフが連携し、ターミナル支援の同意を得た上でターミナルケアにかかる同意書を頂き共に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 今年は、看取り支援を行ったような事例はなかったが、重度化した利用者が高熱を出した時、以前の経験を踏まえて、ご家族と協力しながらケアされた。夜間は、管理者・他の職員は、携帯電話を常に持ち、事業所から連絡が入れば、すぐにサポートできるような体制を作って支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 医師や訪問看護師の内部研修を受けて、実践力が身につくように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進委員会などで地域の方々に、協力をお願いし、当ホームの避難経路などを話し合ったり、避難通路の整備に努め、訓練には、地域の方にも参加してもらい、地域と協力して災害対策に努めている。	
			(外部評価) 災害が起こった時には、近くにある系列の診療所の2階に避難することになっている。防火訓練では、火災報知機の使い方、職員と利用者で消火器の使い方を訓練された。消防署の方からは、定期的に連絡体制を確認したり、地域との交流を深めていくようアドバイスをいただいた。ガスの元栓は、「使用毎に閉める」ことを職員で徹底されている。	災害時の対策について、利用者、職員の安全に向けてさらに具体的に対策を検討していかれてほしい。介護度が重度の利用者も複数おられ、又、利用者の状態も変わることから、職員全員が経験できるよう、繰り返し訓練に取り組んでいかれてほしい。管理者は、災害対策の研修時に避難時の持ち出し品について勉強をされ、今後、避難リュックを購入し、準備していきたいと考えておられた。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人の性格やその人の気持ちを汲み取り、笑顔で安心出来る様に接する。	
			(外部評価) 管理者は「職員の心が利用者の心に映る。心豊かに支援していきたい」と考えておられ、利用者個々のその日の精神状態を理解しながら、支援することを大切にされている。事業所のお便りに載せる写真は、ご本人やご家族の了解を得て作成されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情や仕草で思いや希望を汲み取り自己決定を促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんのペースに合わせて希望に副える様に工夫して 対応する。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 利用者さんの家族が毎月出張理髪をして下さり、利用者さん も心待ちにされている。自分の衣類、持ち物は自分で選ん でいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) いりこの頭とりや、もやしのひげ根取り等を楽しんで一緒にし ている。食後、自分の食べられた後の食器を洗うのを楽しみ にされている。	
			(外部評価) 調査訪問日、利用者をご自分でご飯をよそったり、食後、食 器をお盆に乗せて下膳している様子がみられた。食材は、 無農薬・自然素材にこだわり、食材を選んでおられ、注文し て、業者や近所の魚屋、八百屋から配達してくれるようにな っている。野菜を多く使用し、30品目の食材を使った食事 作りを目指しておられる。テーブルには、個々にランチョン マットを敷いて、利用者が好みで使えるよう、ドレッシングや 酢を用意されていた。職員も同じものを利用者と一緒に食べ ておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分摂取量を計り把握している。刻み食、糖尿病食 の栄養バランスや摂取量等、個別支援に取り組んでいる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア、口腔マッサージ等で清潔保持し、誤嚥予防をして いる。週2回口腔リハビリのボランティアさん来所により、指導 を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄の時間帯を探り、声掛けやトイレ誘導で自立出来る様になっている。 (外部評価) 食後、必ずトイレに行く習慣がある利用者には、排泄後の手洗いまでご自分で行えるよう、職員がそばでサポートされている。夜間、居室にポータブルトイレを置く方も、その時の利用者の希望でトイレで排泄することもできるように支援されている。おむつを使用する利用者の居室には、炊飯器で清拭布を保温し、いつでもあたたかい布が使用できるようにされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維等を多く使った食事支援と乳製品や野菜ジュース等水分補給につとめている。毎朝健康体操をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、各自の体調を考慮しながら個々に応じた入浴支援を行っている。 (外部評価) 週3回入浴できるよう支援されている。介護度が重度の利用者の方で浴槽で温まることで疲れるような利用者の方には、体が温まるよう配慮しながらシャワー浴を支援されている。ひとりでお入浴する利用者には、職員は脱衣場から時々声をかけて安全に入浴できるよう見守っておられる。浴槽の中や外にイスを設置して、職員が案内しながら、ご自分の力を使って浴槽に出入りできるよう支援されている。扇風機や温風ヒーターで脱衣所の室温にも気を付けておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各自の生活リズムや生活習慣に合わせて思い思いに自室で休まれたり、リビングで過ごされたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に目を通し、効能、投薬方法の把握を全職員が共有し、支援している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみをしたり、食材の下ごしらえや食器洗いをしたり地域の商店に買い物に出かけたり、個々の趣味等を楽しまれている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族との外出を楽しんだり、職員同行でドライブや外食などに出かけている。	
			(外部評価) 利用者は、庭の散策をされたり、近所を散歩されている。ショッピングセンターに出かけたり、回転寿司で外食することもある。ご家族とドライブや外食に出かける方もいる。気の合う利用者同士で外食できるよう職員が同行されたり、靴下等の日用品を買いに行くことも支援されている。介護度が重度の利用者は、デッキで日向ぼっこ等されている。	管理者・職員とも、外出支援を充実したいと考えておられる。さらに今後、利用者が行ってみたい場所や懐かしいような場所に出かけてみられたり、外出支援についてはご家族の希望もお聞きしたり、協力を得ながら、支援を拡げていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等に出かけ、自分の欲しい物等を選んで楽しまれている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りの支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングは皆が集まれる場所になっていて、季節の花や、写真や利用者の描いた絵を飾っている。キッチンからの包丁の音や、食材のにおいを感じ、食事を楽しみに待たれている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>100年以上経つ古民家をそのまま利用したグループホームで、段差もあるが、利用者の身体機能の維持向上にも成果があり、職員は安全に生活できるよう見守りながら支援されている。事業所の庭は、以前利用されていた方のご家族がボランティアで手入れをしてくださっており、暖かい日には、軒先にベンチを出して、日向ぼっこされたり庭を眺め楽しまれている。調査訪問時は天気もよく、車いすを使用している利用者がテラスで日向ぼっこされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングのソファで、気のあった利用者さん同志が会話したり、テレビを観たり、又、ウトウトと居眠りをされたりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>思い出の品が飾られている。若いころ使用されていた、昔ながらの家具や、道具等を置き、馴染みの生活空間に工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅からテレビや家具・人形を持って来られている方もいる。誕生会の写真やひ孫さんやご家族の写真を飾っている方もみられた。2人部屋が一部屋あり、長時間をベッド上で過ごす利用者の方同士で使用されており、排泄物はすぐに片付け、消臭スプレーを使用したり換気して、消臭に気を付けておられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人ひとりの生活の在り方を尊重して、自室での暮らし方を自分らしく過ごしていただくために、スタッフがあまり介入せずに自由な生活を送れるように努めている。</p>	